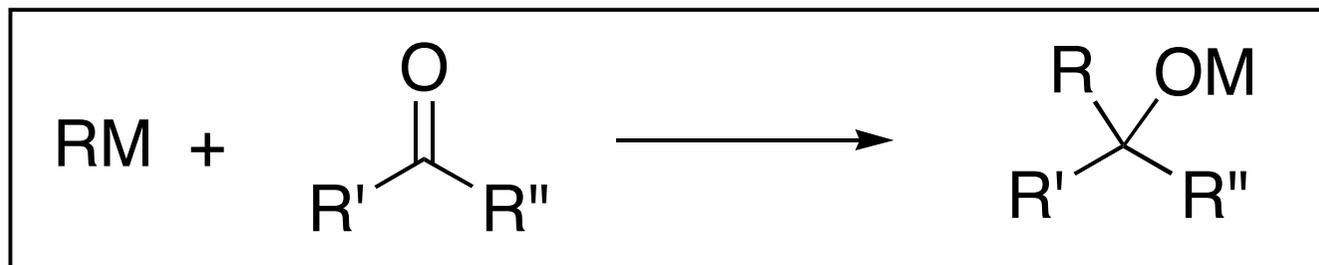


## 5.カルボアニオン反応の立体化学

i カルボニルへの1,2-付加



### 立体化学

R<sup>-</sup> の近づき方

R<sup>-</sup> 上の立体化学

# Bürgi-Dunitz Trajectory

アミノケトンの結晶構造解析

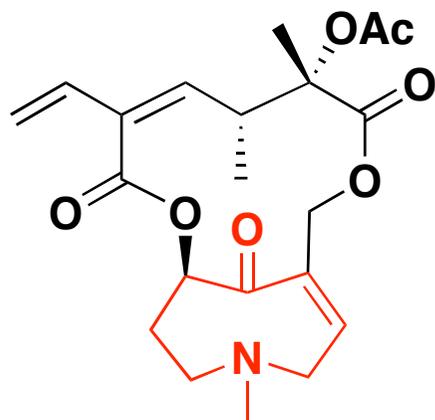
窒素原子が接近



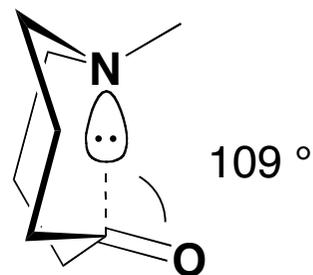
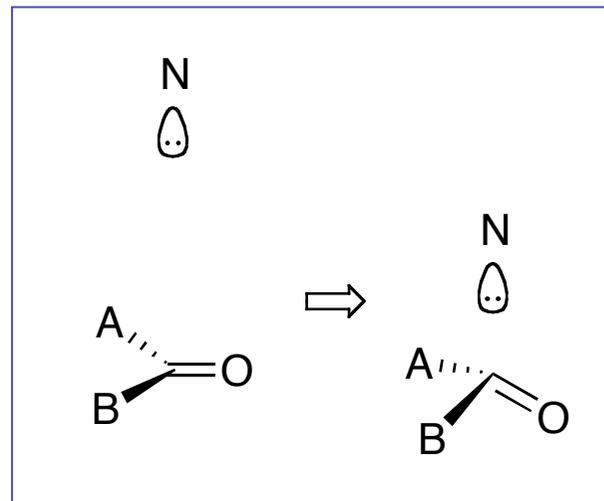
カルボニル炭素非平面化



求引的相互作用



clivorine



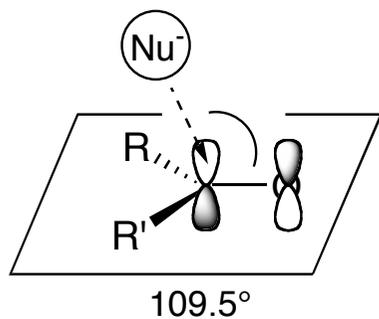
求核攻撃に有利な接近方向  
(正四面体角  $109^\circ 28'$ )

カルボアニオン反応の立体化学  
5.1 カルボニル化合物との反応  
5.1.1 反応概観

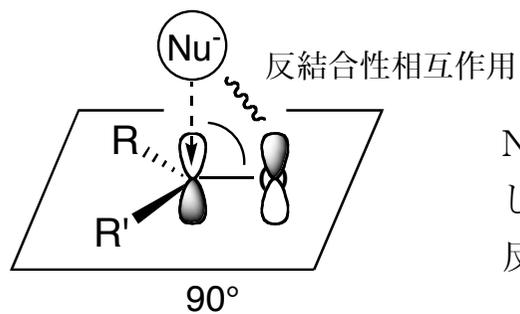
◎求核付加反応



配座：立体電子効果



結合性軌道との重なりと反結合性相互作用の  
総和として最も有利な配座



Nu<sup>-</sup>のHOMOとカルボニル炭素上p軌道の重なり最大  
しかし、カルボニル酸素上のLUMO (p\*)との  
反結合性相互作用大